

# 東北整練株式会社

## 唯一無二の「MVAミヴァージュ加工」技術を基に取引先との契約を締結しさらなる事業展開を目指す

**本 社** 〒992-0003 山形県米沢市窪田町窪田2736-1

**U R L** <https://www.tohoku-seiren.co.jp/>

**業務内容** 生地の特練・染色・仕上げ加工、製品染め

**設 立** 昭和36年 **資 本 金** 100,000千円 **従業員数** 49名



代表取締役社長 柴崎秀之氏

東北整練株式会社は、昭和36年の創業以来、生地の特練・加工業で幅広い工程に携わりながら、特練技術、染色技術、複合素材の織物技術等の改善や不断の努力に基づく開発を通じて独自の技術を積み上げ、事業を成長させている。

近年は、市場ニーズに合わせたオリジナル商品の開発や自社ブランドの立上げにも挑戦している。

### ■ きっかけは契約回りの相談

山形県に拠点を置く同社は、繊維製品の加工・製造を営む専門企業で、生地の特練・染色・仕上げ加工等を主力事業とする。長年培った経験と高い技術を活かし高品質な製品を仕上げると共に、時代のニーズに応える製品開発まで行えることを強みとしている。

近年は、キュプラやレーヨンなどシルクに似た光沢やツヤ・風合い有する植物性化学繊維で、これまで課題だった「洗濯が難しい」「縮みが激しい」「色移りし易い」という弱点を改善し、高品質な質感と強さを両立させた先端加工技術『MVAミヴァージュ加工』を独自に開発。これを特許権利化すると共に、創業当初からの染色技術と組み合わせた新たな技術基盤を生かし、ファッション・スポーツなどの衣料分野、さらにはサステナビリティを追求した先端材料分野まで幅広い事業展開を行っている。

そんな同社への支援のきっかけは、大手企業との契約に関する相談依頼であった。

従来からINPIT山形県知財総合支援窓口（以下「窓口」）に知財相談をしていた同社だったが、今回の契約は同社の重要技術に関するものであることから、窓口よりINPIT知財戦略エキスパート（以下「知財Ex」）の紹介を受け、その支援を受けることになった。

知財Exはまず、同社事業の現状について詳細なヒアリングを実施。取引に関するビジネスモデルを整理した上、同社のコアコンピタンスを明確化することで、取引に関わる契約スキームを再構成することを提案。結果、当初比較的単純に考えられていた契約相談だったが、同社の付加価値をより高められる技術-ブランドに関わる多面的な契約スキームとすることになった。

さらに、将来の事業展望も見据えた上で、懸念される技術・ビジネス上のリスクについても検討し、今後問題となり得る技術情報や知財・契約面における課題を整理・分析することで、取り組むべき事項の優先順位付けを行い、順番に対応していくこととした。

### 取材企業の声

特許技術を権利化し、それを起点にビジネス拡大を図るにあたって専門的な知見から、先生の知的財産の運用や押さえポイントなどのアドバイスは大変助かりました。今後は、これらを広くPRし、生活になくてはならない技術として一般的に広まることを期待しております。（東北整練株式会社 MVAパブリシティ担当 高橋元希氏）

## ■ 事業実態に即した適切な契約締結へ

具体的には、知財Exから、まずこの種の契約の基本的な考え方の解説をした上で、ビジネス観点から留意すべきポイントを洗い出した。そして、時間的制約と作業効率の面から既存のひな形契約をベースとしながらも、取引実態に即した契約内容を盛り込むことで、自社利益を最大化すると共に、将来発生し得る様々なリスクもヘッジした契約構成とすることを助言した。

これを受け同社は検討を進め、最終的に本事業用にカスタマイズした契約原案を作成。それに基づき外部弁護士に確認依頼することで、的確かつ効率的に契約書を完成した。さらに、取引先との交渉を経て契約締結も無事完了し、新規ビジネスに対して万全の備えを図ることができたという。

同社MVA担当の高橋元希氏は「他社との共同開発や取引では実態に即した契約を締結することが必要であることを、知財戦略エキスパートからの説明で理解することができた。」と当時を振り返った。

## ■ 自社技術を守るために

さらに、知財Exは、技術開示を伴う取引に際しては、自社コアコンピタンスの社外流出により、将来の事業基盤の喪失リスクがあることへの留意と、十分な対策を講じる必要があることを助言。具体的な方策として、開示技術の記録、会議での口頭開示や技術指導内容のドキュメント化により、自社技術であるエビデンスを残すこと、また、機密情報の「Confidential」表示や著作権表示を付す等により自社技術を守ることが重要であることを助言した。これらの作業は、担当者にとって手間がかかり煩雑ではあるが、将来の技術流出や情報のコンタミネーションを防止し、自社技術を保護するため極めて重要であることを強調した。

同社では、その後、技術流出リスクとその防止策の重要性を認識し、その取り組みを強化している。

## ■ 支援を振り返って

東北製錬様は、職人技と先端技術の開発力を合わせ持った日本企業の伝統的な強さを体現された企業です。その強みを最大限活かせるよう、事業戦略と整合した知財・契約スキームの構築を心がけ、関係者が目標に向かって一丸となって取り組んだ結果、取引先様ともWin-Winの契約が締結ができ、サポートさせて頂いた者としても大変嬉しく思います。（知財戦略エキスパート 井上尚幸）



同社製品

## ■ 今後の展望

同社では、今後も知財Exおよび窓口の支援を得ながら、自社技術の継続的な改良と、付随する周辺特許の権利化やノウハウ保護に取り組んでいく考えである。これらを通じて、自社競争力の維持と継続的な強化を図りつつ、協業先に対してはライセンス供与等の手段を通じて、自社ブランド「MVA」や「ミマーシュ」のブランド価値を高め、さらなる競争力の強化を図っていきたいと考えている。



同社／本社